



学習支援は大学内のどこで どのように行われているのか —お茶大のケースから図書館の可能性を探る—

平成26年2月12日(水)

国立大学図書館協会 教育学習支援検討特別委員会 事例報告会
「伝統的な図書館を超える図書館活動 —学修支援の実際—」

お茶の水女子大学
図書・情報チーム
森 いづみ

お茶大図書館のラーニングcommons

- ラーニングcommonsを早い時期(2007年)に設置
- ラーニングアドバイザー(LA)が常駐
- 図書館のカフェでキャリア教育関連のイベントや学生の自主企画イベントが目白押し

→ラーニングcommonsといえばお茶大

→改修や身近な工夫で実現しているから参考になりそう

実際良く使
われている

ハッピー
オーラ♪

悩んでいること-1


空間／人的支援に関すること

- 経費（LAの人的費／PC導入・保守費）

- 特別経費「学生主体の新しい学士課程の創成 -21世紀型リベラルアーツと複数プログラム選択型専門教育-」
→平成25年度で終了

- 規模

- いつも混んでいる、席と席が近い
- イベントをしていると自習スペースが足りなくなる



Unlearning
が必要だった

- 中身

- LAの業務内容はPCやプリンタのサポートが中心
→それって「ラーニング」アドバイザーと言えるの？
→いわゆる「アクティブ・ラーニング」の場になっているの？
- 情報リテラシー教育支援のあり方は？

悩んでいること-2

蔵書・コンテンツに関すること

● 蔵書の配置

- 全学蔵書68万冊の半分が24か所の学科等図書室＋研究室に分散
 - ✓ キャンパス・マスタープラン(平成25年6月)で指摘
 - ✓ 平成24年度「外部評価報告書」(平成25年8月)で指摘
 - ✓ 学生からも、研究室配置の図書が使いづらいとの声

● コンテンツ経費

- 円安影響／間接経費縮減傾向
 - ✓ 電子コンテンツ経費確保に課題

● 学生用図書／コンテンツのあり方

- 選書の在り方(何を)、提供の在り方(どのような形で)
- シラバスとの連携／教育との連携

新しい展開-1

- 新図書館構想に取り組むことに(6月)
 - 附属図書館運営委員会の下にWGを設置
 - サブグループ(空間機能、蔵書・コンテンツ、人材育成)を設置
 - メンバーは、教員4名、職員4名
- 新図書館を創立140周年記念事業と位置付けることに(11月)
 - 寄付事業
 - 一部局から全学へ



新しい展開-1

- 新図書館構想WG報告書を提出(2月)

「創造的学びと人類智が交差する空間をめざして：
～お茶の水の源泉から世界の大海へ～」

新しい図書館の三つの柱(ビジョン)

- (1) 知の源泉となる蔵書・コンテンツの充実を図ります
- (2) 創造的学びの場としての空間機能を提供します
- (3) 人類智が交差する場として人と人とのつながりを
支援します→新しい人材の開発育成・コミュニティ作り

新図書館構想WGの取組み-1

- 建築の専門家を招いた勉強会



新しい学びの
場として
どんな空間が
必要なのか？

新図書館構想WGの取組み-2

- 電子教材についての勉強会



教育開発センター
情報基盤センター
附属高校(情報)
の先生方も参加

アクティブラーニ
ングのためには
どんなコンテンツ
が必要なのか？

アクティブ・ラーニングって？

- 「読解・作文・討論・問題解決などの活動において分析・統合・評価のような高次思考課題を行う学習」

山内祐平ほか「ワークショップデザイン論」慶應義塾大学出版会、2013.6

- ...Student must do more than just listen: They must read, write, discuss, or be engaged in solving problems.

Charles C. Bonwel and James A. Eison “Active Learning: Creating Excitement in the Classroom” ASHE-ERIC Higher Education Reports, 1991

アクティブラーニングのプロセスには
個と多(他)の両方があるのでは

アクティブ・ラーニング実践例-1

- LIDEE“Life Innovation by Design and Engineering Education” <http://www.eng.ocha.ac.jp/lidee2013.pdf>
ワークショップ形式を基本とした「問題解決型」のプログラム

「アクティブ・ラーニング」としてのLIDEEの特徴

- ✓ チーム作業：自分の考えを他者に伝え、また他者の考えを知ることを体験してもらうため、チームによる作業が基本
- ✓ ワークショップ：結果では無く過程を重要視すること、多様な視点や考え方の「気づき」を体験してもらうため、ワークショップ形式での作業を行う
- ✓ 現場調査や専門家の参加：机上の議論だけでは無く街に出てヒアリングをするなど、現場での体験を重視。できるだけ外部の専門家をお呼びして、現場の声を聴く機会を設定

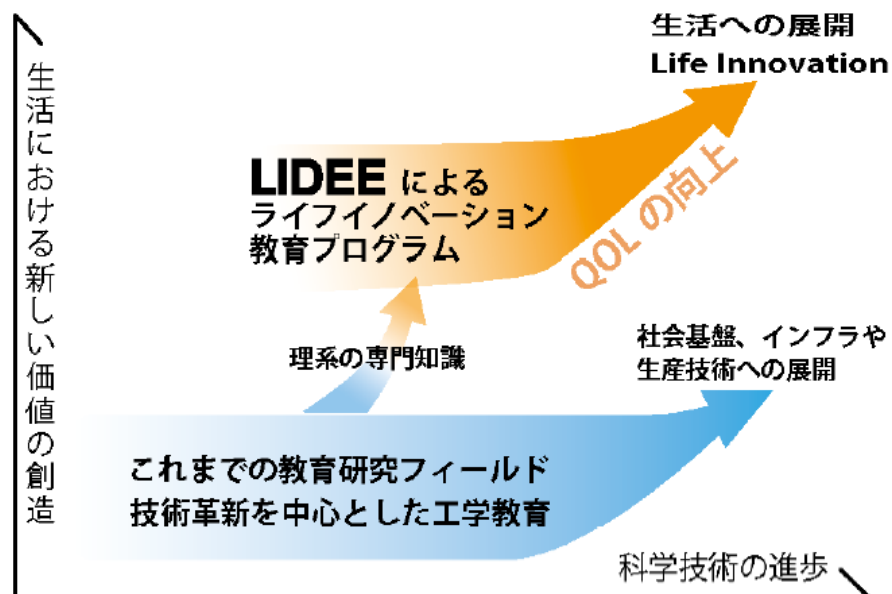
アクティブ・ラーニング実践例-2

● LIDEE“Life Innovation by Design and Engineering Education”

LIDEEの活動から見た求められる空間

- ✓ ワークショップの場所
- ✓ 発表・講評の場所
- ✓ 情報の加工の課題

+ 事前調査やアイデア出しのスキルも必要？



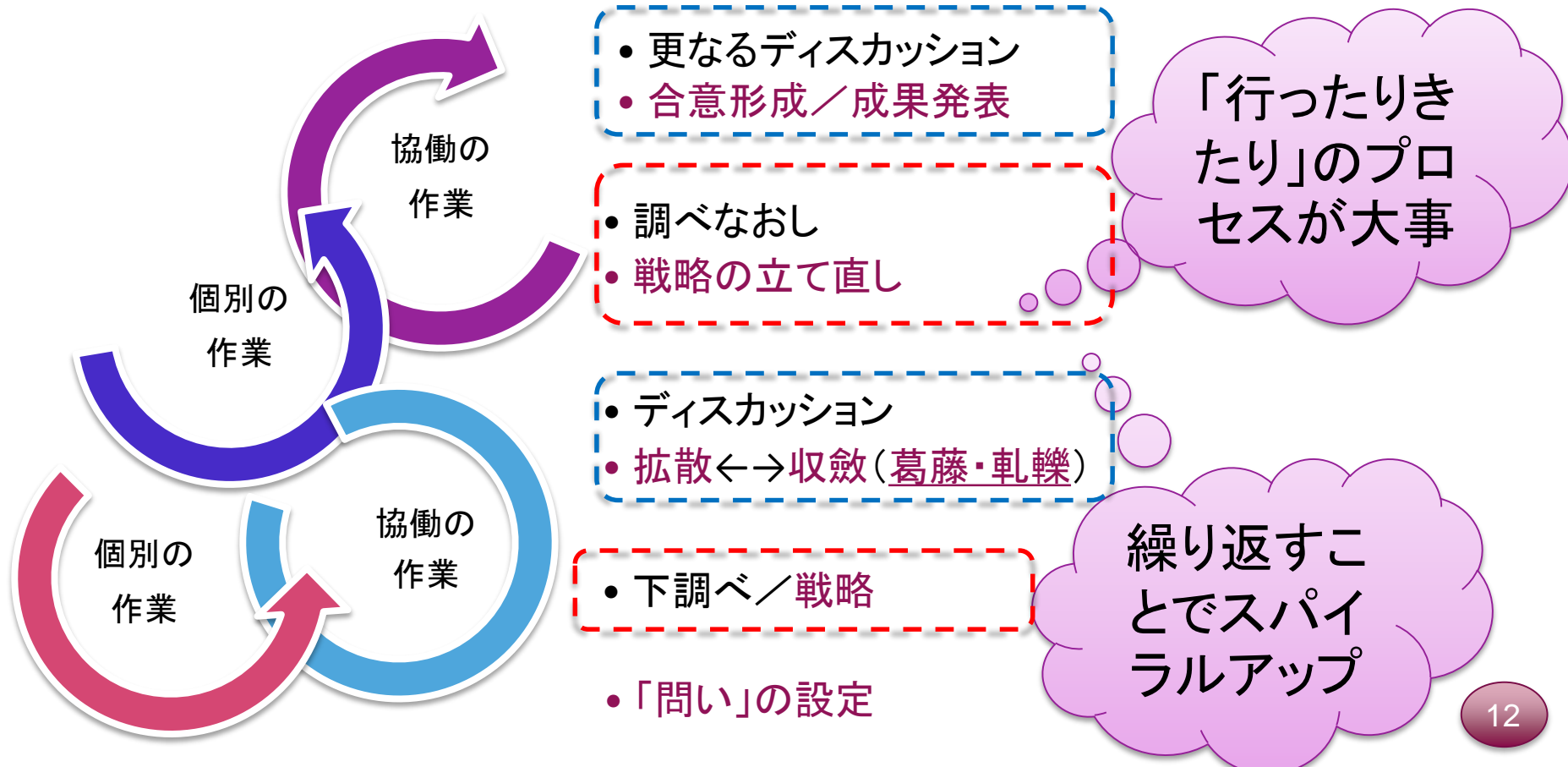
出典: 松田雄二『新図書館構想WG 空間SG「LIDEE」プログラムの報告』

平成25年9月10日 新図書館構想WG第2回打合せ資料

URL: <http://www.eng.ocha.ac.jp/lidee.html>

アクティブ・ラーニングって？-2

- 学修のプロセスは一方方向ではない
- 場所は教室だけでも図書館だけでもない





新図書館構想WGの取組み-3

● 図書室を有する学科等へのアンケート

– 24か所の学科等図書室中、20か所から回答

✓ 学科によってスタンスはちがう

✓ 学科によっては、共通図書室のものと研究室置きのもの混在

URL http://www.lib.ocha.ac.jp/anq/anq_lib.html

● 教員へのアンケート

– 有効回答数:105 (全体の1/3)

✓ 蔵書・コンテンツ:

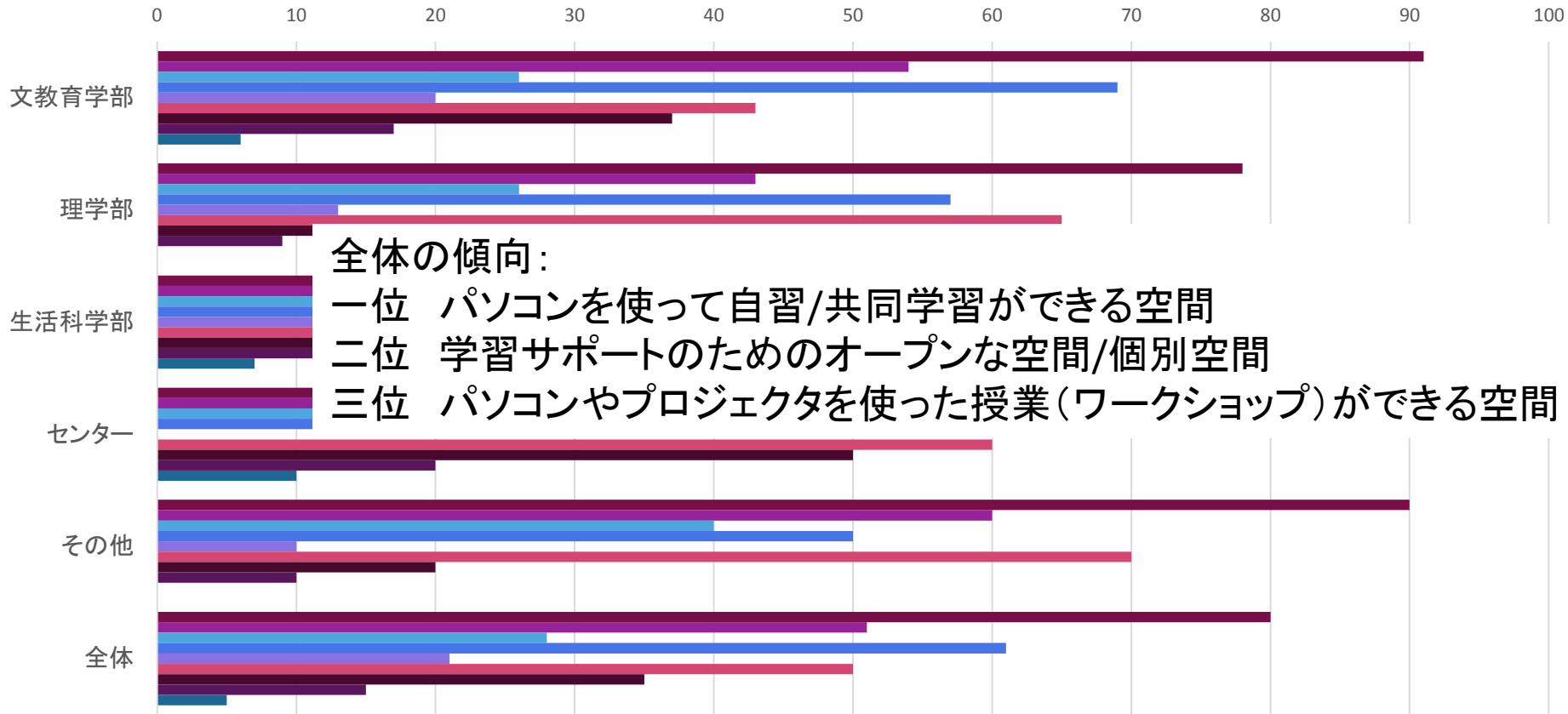
✓ 学修空間:アクティブラーニングのために必要なスペース

✓ 人的支援:ピアサポートについて/必要な知識・スキル/期待等

URL http://www.lib.ocha.ac.jp/anq/anq_kyoin.html

アンケート結果分析 (井上さんまとめ)

アクティブラーニング(能動的学修)のために必要なスペース



全体の傾向:

一位 パソコンを使って自習/共同学習ができる空間

二位 学習サポートのためのオープンな空間/個別空間

三位 パソコンやプロジェクタを使った授業(ワークショップ)ができる空間

■ A パソコンを使って自習/共同学習ができる空間

■ C キャリア支援・キャリア教育のための空間

■ E 集中して学習/研究するための個別空間

■ G e-ラーニングのための空間

■ その他

■ B パソコンやプロジェクタを使った授業ができる空間

■ D 学習サポートのためのオープンな空間/個別空間

■ F 学習研究の成果物を作成するためのラボ(大型プリンターなど)

■ H ICT教室

新図書館構想WGの取組み-4

● 学生へのアンケート

- LA科目「知覚認知と環境デザイン」(第4回)のワークシート
- 有効回答数: 180(1学年500人 1-2年生中心 全体の1割)

(1) 図書館の中に、お気に入りの場所はありますか？

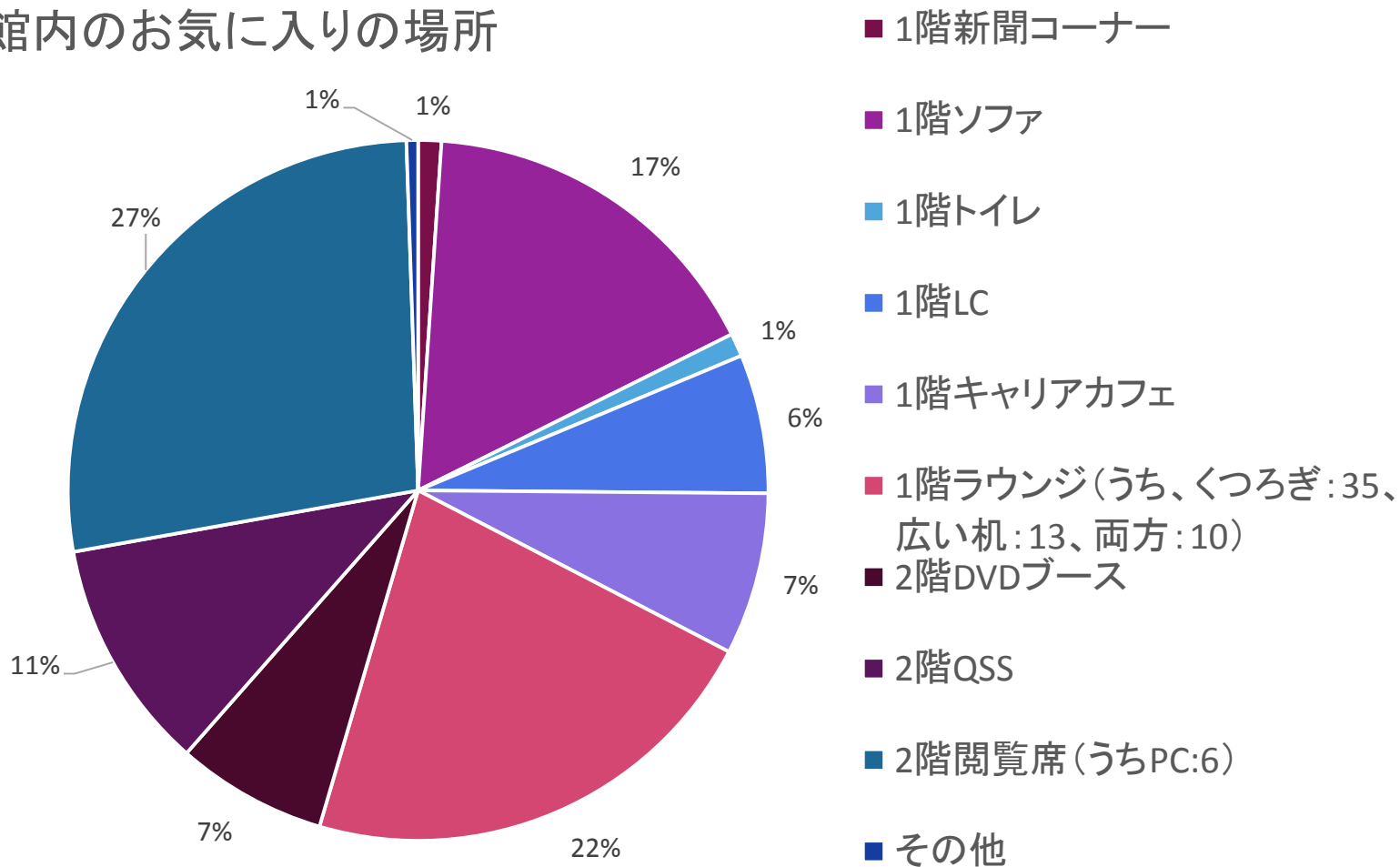
- それはどこですか？ 2階閲覧席／1階ラウンジ／1階ソファ
- どうしてお気に入りなのですか？ 集中できるから／集中・コミュニケーション両方／寝られるから

(2) 人的支援について

- LiSAって知っていた？ 67% やってみたい？ 25%
- ラーニング・アドバイザーって知っていた？ 50%
- 図書館のレファレンスサービスって知ってる？ 20%

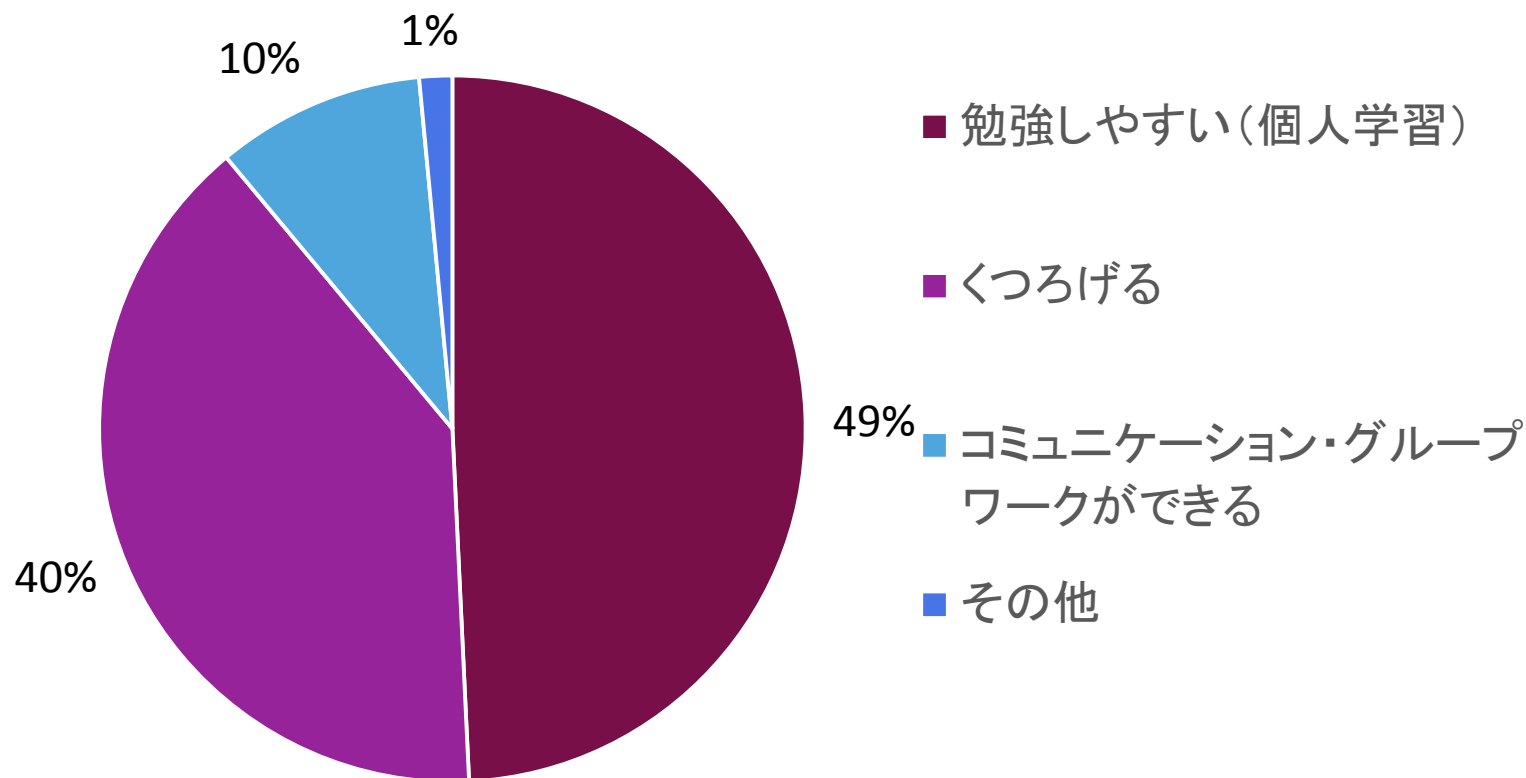
ワークシート結果分析 (餌取さんまとめ)

図書館内のお気に入りの場所



ワークシート結果分析 (餌取さんまとめ)

お気に入りの理由 分類結果



新図書館構想WGの取組み-5

● 学生へのアンケート

(3) 図書館にあったらいいなと思う空間機能は？

－ 学修空間：アクティブラーニング（能動的学修）のために必要なスペース（複数選択可）

○ <u>集中して学習／研究するための個別空間</u>	88%
○ <u>パソコンを使って自習／共同学習ができる空間</u>	82%
○ <u>学習サポートのためのオープンな空間／個別空間</u>	73%
○キャリア支援・キャリア教育のための空間	52%
○学習研究の成果物を作成するためのラボ（大型プリンター等）	50%
○e-ラーニングのための空間	40%

一位 パソコンを使って自習/共同学習ができる空間

二位 学習サポートのためのオープンな空間

三位 パソコンやプロジェクタを使った授業

相違点

学生：集中して学習

教員：ワークショップ空間

新図書館構想WGの取組み-6

● 学生へのアンケート

(4) 図書館にあったらいいなと思う空間機能は？

－ コミュニケーションスペース(複数選択可)

○オープンなコミュニケーションスペース	70%
○飲み物を飲みながらコミュニケーションができるスペース	86%
○軽食を食べながらコミュニケーションができるスペース	70%

それは「図書館にあるからいいの？」

「図書館でなくても、学内のどこかにあればいいの？」

集中と協働
静と動の
両方が求めら
れている



学習支援は大学内のどこで どのように行われているのか-1

- 「学修」支援系の組織
- 総合学修支援センター
 - 学修プロセスの構築をサポートします
 - 「複数プログラム選択履修制度」を全面的にサポート
 - 学内共同教育研究施設として、総合的な学修相談、学修指導などの支援を行い、本学の教育活動に資することを目的としています。
 - 教職員や専門のスタッフなどに、複数プログラム選択履修制度に関するさまざまな相談をすることができます。

学習支援は大学内のどこで どのように行われているのか-2

● 教育開発センター

● 多次元的な学士力養成を担う総合的学修支援

— 学修支援情報システム alaginの開発運用

alagin (Academic Learning and Achievement Guiding Information Network system) は、大学教育・学生支援推進事業【テーマA】大学教育推進プログラム「多次元的な学士力養成を担う総合的学修支援」事業において開発した学生にとっての学修支援情報システム(時間割表示システム+学修状況チェックシステム)です。

— 学士課程における各科目のカリキュラム体系上の位置付や水準(ベンチマーク)を5種類のカラーコードで類別

いわゆるルーブリック?

学習支援は大学内のどこで どのように行われているのか-3

- 授業の中で行われている(少人数制)
 - 例: イスラム研究の方法～論文執筆まで
 - オーダーメイド講習会: 文献検索～入手を図書館が講習
- 学科・コース、教員個人で行っている

> 各学部・研究科対象のアンケート

卒業論文・修士論文等の執筆の手引きについて

- 「手引き」を作成されていますか? >>22の図書室に調査依頼
何らかの「手引き」作成: 1/3
ピアサポートを取り入れている講座もある

学習支援は大学内のどこで どのように行われているのか-4

● 学習・キャリア支援センター

2007年以降継続的にコラボレーション

— 今年度も各種イベントが盛況！

内定者体験報告会／内定者による就活サポートコーナー
日常的な進路・就職アドバイス／キャリアデザイン相談
企業合同説明会(ブースを複数設置)／OG懇談会

● 情報基盤センター

図書館内のパソコン活用は全てITセンターとの協働

— 特別経費終了後の安定的サービスに向けて協働

IT関連の学習環境(モノ／ヒト)の整備は経常的に必要

新しい展開-2

- 文部科学省平成25年度「博士課程教育リーディングプログラム【複合領域型(横断的テーマ)】」に採択(10月)

「みがかずば」の精神に基づきイノベーションを創出し続ける
理工系グローバルリーダーの育成:

物理・数学・情報の基盤力とチームスタディを基にしたお茶大型理工学ソフトリーダー育成プログラム

- Project Based Team Study (PBTS) への挑戦: PBLをグループ学習からチーム研究に深化させたPBTSを実践する

何らかの形で
コミットしたい

まとめと今後の展開

- 学習支援は学内の各所で実践されているが全体としての連携は・・・？
- 図書館がオープンマインドであることは学内で認知されている

→ハード面だけではなくソフト面で展開

→ニッチなニーズの掘り起し

→個別に動いているプロジェクトを繋ぐ役割

★大学が目指す方向性に沿って

学内で学習支援の活動に欠かせない存在となること

★アカデミック・ラーニング・アドバイザーの新設